

キャラバントピックス

自治体キャラバンが始まりました。宝達志水・輪島（11月9日）以外、能登の自治体との懇談は終わりました。懇談の中でのいくつかのトピックスを報告します。

中能登町：第二子以降の学校給食費無料化を実施 第三子からの提案に町長「第二子から」と決断

子どもの貧困化が進行する中で学校給食費の滞納も一定あり、学校長が、滞納世帯先に電話をしたり訪問をしたりする自治体もありました。全国では滋賀県長浜市のように学校給食費の無料化を実施している自治体が出てきています。

今度の自治体キャラバンでは、「小中学校の給食費を無償にしてください。当面一般財源繰り入れによる減額や多子世帯に対する支援などを行い、未納者が生じないようにしてください。」と要望しました。その要望に中能登町が「第二子以降の学校給食費の無料化に踏み出した」として応えてくれました。



中能登町学校給食費助成金交付要綱について

・平成28年4月1日 中能登町学校給食費助成金交付要綱制定

◇助成額 小学校 1食270円分の年間実日数分（年間約54,000円）

中学校 1食330円分の年間実日数分（年間約66,000円）

・助成金対象者は、次の要件をいずれも満たす世帯の第二子以降の児童または生徒の保護者とする。ただし、生活保護、就学援助等の認定により給食費相当額の給付を受けている場合は、対象外とする。

(1) 中能登町に住所を有すること。

(2) 18歳に達する日以降の最初の3月31日までにある対象児童等を2人以上扶養していること。

就学援助費、入学前に支給する自治体が6自治体に

就学援助制度では、入学前に用意するカバン、洋服などの助成がなされますが、その支給は7月頃となっています。「入学前に就学援助の支給を！」という父母の願いを受けて、羽咋市では署名を集めて、その願いが来年の3月に実現することになりました。入学前（中学に行く前）に就学援助を支給している自治体は、白山市、小松市、七尾市、羽咋市、志賀町、津幡町となりました。



**就学援助費の学校給食費実費全額の助成を！
中能登町に続いて学校給食費を無料に！**

要支援1・2の方の総合支援事業化 「緩和したサービスは導入しないで！」という要求に 川北町・中能登町・穴水町が「了解しました」と

要支援1・2の方の通所介護、訪問介護は2017年4月からすべての市町村で介護事業から自治体の地域総合事業に移行します。総合支援事業化するに当たっての県社保協は、「基本現行通りの安心・

安全サービスを続けられること」「そのためには総合サービスに移行となっても現行と同じ質と量のサービスを提供すること」「委託費も介護報酬と同額にすること」「緩和サービスは導入しないこと」「住民主体の助け合いサービスは、上乗せサービスとすること」などを求めています。

「緩和したサービス」は安上がりサービスで安全・安心は確保できません。この「緩和サービスは導入しません」という自治体は川北町・中能登町・穴水町と確かな変化が起きています。

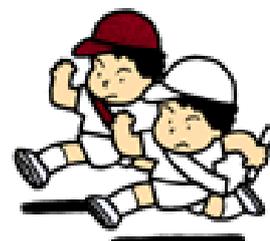


子どもの均等割の廃止を全国知事会が国に要望 国保への国庫支援金を活用すれば、 子どもにかかる国保均等割を廃止可能

子どもの貧困対策として、子どもに関わる負担を廃止することが大事です。全国知事会は、国民健康保険において子どもにも均等割がかかっています、これを廃止することを国に要望書をあげました。

今年の自治体キャラバンでは「子どもに国保料がかかるのはおかしいではないか」「国保の子どもの均等割を廃止してください」と要望しています。

2015年から国保への国庫負担金が毎年1700億円増えました。石川県全体では年13億円です。子どもの均等割廃止に必要な額は県全体で5億8千万円です。国保支援金を活用すれば、支援金の半分でそれが実現します。



2016年自治体キャラバンにご参加を

今年の自治体キャラバンは、貧困と格差が広がり、住民の暮らしと営業が大変厳しくなっている中で、自治体に「住民の暮らしと福祉を守る」ことを目的に実施しています。多くの参加を呼びかけます。とりわけ11月9日(8:30石川勤労者医療協会出発)の宝達志水・輪島コースの金沢からの参加者は今のところ、寺越一人です。SOS. ご参加ください。

4日	金	野々市市：10:00～11:30、白山市：14:00～15:30
9日	水	宝達志水町：9:30～11:00、輪島市：13:30～15:00
14日	月	能美市：13:30～ 15:00
16日	水	加賀市：13:30～ 15:00
18日	金	小松市：10:00～ 11:30